



海外に雄飛した先人達

文部科学副大臣
名誉顧問 藤井基之



IS（いわゆる「イスラム国」）による残酷なテロが世界的問題となつていますが、後藤健二氏をはじめ戦場カメラマンといわれる人たちの活動がいかに過酷な状況で行われているか、改めて関心を集めました。後藤氏の事件後、シリアに赴こうとした別のカメラマン氏の渡航が認められませんでした。海外渡航の自由は憲法で認められた権利ですが、この場合、同氏の生命を守るためにもやむを得ない措置だったでしょう。

ところで、その昔の海外渡航は、それこそ命がけでした。今日では、地球上どこでも日本から十〜二十数時間で行くことができますが、飛行機も汽船もない時代、ヨーロッパやアメリカに行くのには数か月、場合によっては何年もかかりました。

十五世紀から十七世紀にかけては「大航海時代」と呼ばれています。ポルトガル、スペインを中心としてヨーロッパ人が大西洋、太平洋を横断して、新大陸

アメリカに渡り、アジア諸国にもやってきました。十六世紀には日本にもスペインやポルトガルから商船や宣教師たちが大勢やってきました。

しかし当時の日本人にとって、太平洋を横断し、あるいはアジア、インド、アフリカを経て西洋に向かうなど、とてつもないことでした。台湾、フィリピンの間のバシー海峡から沸き起こる強い海流（黒潮）が日本列島の太平洋側に沿って走り、これにつかまったら日本の小さな漁船などはひとたまりもありませんでした。しかし、スペインやポルトガルの大型帆船は、むしろこの海流を利用して日本にやってきました。

しかし、十六世紀から幕末まで、いろいろな事情で日本から海外に渡った少なからぬ日本人がいました。有名なところでは貿易商人ルソン助左衛門、伊達政宗の命令で渡欧した支倉常長、難破してロシアに渡った大黒屋光太夫、高田屋嘉兵衛やアメリカに渡った土佐

の漁師ジョン万次郎などがいますが、それら以外にも有名無名のたくさんの方がいました。その中で、興味深い人物、何人かを紹介してみよう。

田中勝介。一六〇九年、徳川家康の命令でメキシコに渡りました。徳川時代という鎖国時代ではないか、と思いますが、本格的な鎖国令が敷かれたのは一六三三年（寛永十年）、家康が亡くなって十七年後の第三代将軍家光の頃です。

徳川家康は外国との交易を大切にしようとしたようです。特に、当時フィリピン（ルソン）を占領していたスペインの商船の日本への立ち寄りを期待していました。家康は、日本とスペインの貿易を大いにやりたい、また、当時、日本では銀がたくさん採れましたが、精錬技術が劣っている。スペイン領のメキシコでも銀がたくさん算出し、精錬技術も進んでいるので、是非、技術者を派遣してほしい、と望んでいたようです。そこで、家康の命令により、田中勝介が日本人と

して初めて、スペイン船に乗り新大陸を目指しました。その時、田中が率いた船は、家康がウイリアム・アダムス（三浦按針）に作らせた日本製の船でした。つまり、その船が太平洋を越えた初めての日本製の船です。この船には、田中だけではなく大勢の日本人が乗り込んでおり、彼らが上陸したアカプルコには、今日でも、ヤマダ、カトウ、コンドウといった姓を持つ人がいるそうです。

岐部ペトロ。ペトロとはキリシタンの洗礼名で、国東半島の岐部の豪族出身の人です。彼は、ローマで学びたいと出国、マカオからインドのゴアへ、さらにホルムズ海峡を通ってペルシャ湾に入り、バグダードに行き、エルサレムを訪ね、そしてローマに行き着きました。その頃、

アジアにいた宣教師達から、日本人は司祭にはいけない（日本人が優秀なため）という意見書がローマに送られていましたが、彼は、独学で試験に合格し、絶大な信頼を得て司祭に任じられました。その後、日本を目指し、大西洋を下して喜望峰を回り、モサンビク、ゴアを通り、マニラ、マカオ、シャムを転々とし、一六三〇年、キリシタ禁教下の日本に潜り込みました。しかし仙台で見つかり、処刑されてしまいました。

播磨の漁師の子、浜田彦蔵。一八五〇年、十三歳の時に乗った船が難破し、南鳥島付近でアメリカの商船に救助されてサンフランシスコに渡りました。ペリーが日本訪問をするのに伴い、帰国することになり、一時香港まで戻りましたが、

ペリーが日本に開国を迫るため自分が利用されるのを嫌い、再びアメリカに帰りました。帰国後、帰化し、アメリカの市民権を得た最初の日本人となりました。リンカーン大統領とも会見をしたそうです。一八五九年、神奈川領事館通訳として採用され、九年ぶりに帰国しました。明治に入り、岸田吟香の協力を受けて、日本で初めての「新聞誌」を発刊、日本の「新聞の父」と呼ばれるようになりました。

近年は、海外留学する日本の若者が減少する傾向にあるそうです。その一方、ISに加わろうと企てる若者もいるとか。そんなマイナス志向ではなく、グローバル時代の今、若者には世界の平和と繁栄のために雄飛してほしいと思います。

藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 2回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ <http://www.mfujii.gr.jp/>

●その他 薬学博士・薬剤師

●私の政治信条

私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー：薬物乱用のない社会)社会創りです。

高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。

好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」

●活動報告

参院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。

●経歴

- 昭和37年 岡山大学教育学部付属中学校卒業
- 昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
- 昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業
- 昭和44年 厚生省入省
- 平成9年 厚生省退官
- 平成9年 財団法人ヒューマンサイエンス 振興財団 専務理事
- 平成12年 日本薬剤師連盟 副会長
社団法人日本薬剤師会 常務理事
- 平成13年 参議院議員（1期目）
- 平成16年 厚生労働大臣政務官
(平成16年9月～平成17年11月)
- 平成19年 日本薬剤師連盟 顧問
- 平成22年 参議院議員（2期目）
- 平成23年 参議院政府開発援助等に関する特別委員会 委員長
- 平成24年 自由民主党広報本部 副本部長
広報本部新聞 出版局長
- 平成25年 自由民主党党紀委員会 委員
裁判官弾劾裁判所 裁判員
- 平成26年 原子力問題特別委員会 委員長
- 現在 文部科学副大臣